

## 会員の広場

### 「ほんとうの図書館」を書く

神奈川県立上溝高校 司書 高橋恵美子

きっかけは3月17日の評議員会だったと言える。協会の専門職員認定制度がどうしてもピンとこない。専門職員認定制度の目的は、1. 図書館で中核的な役割を持つ司書の資質向上、2. 行政内における司書の専門性の認知、3. 司書の社会的認知の向上、となっている。

昨年も協会の総会で同じような感想を持ち、図書館雑誌9月号の投稿の文章を書いた。司書の資質向上、専門性の認知、社会的認知の向上に、専門職員認定制度というやり方は違うのではないか、という思いからだった。

今年は評議員会の前に、1月17日神奈川県立学校図書館大交流会、1月24日第9回学校図書館・公共図書館の充実を求めるつどい in 横浜、3月8日神奈川の図書館を考えるつどい・2009に参加したことも大きい。1月24日のつどいで、参加者が「今、公共図書館にはカウンター経験のない司書が出てきています。」と発言した。また3月8日の催しでは、滋賀県旧能登川町立図書館元館長の才津原哲弘氏の講演で、菅原俊さんの言葉、前川恒夫氏の言葉を知った。

図書館雑誌の投稿ではダメなのだと思う。一般の人に向けてわかりやすい言葉で、図書館とはどういうものか、よい司書とはどういうものかを知ってもらうのが、大事なのだと感じた。

書きあげてすぐ、たまたま会うことになった卒業生に見せ、妹の家族に見せ、手ごたえを感じた。JLA 学校図書館部会のメー

リングリストにもUPしてみた。東京都立高校図書館に勤務する大口和江さんが新入生オリエンテーションのときに印刷して配布すると言ってくれた。私もオリエンテーションでさっそく使ってみた。つい説明に熱が入ってしまった。何しろ投稿の冒頭の文章は上溝高校でのできごとなので。

※昨年高校3年生の女の子からのレファレンス、環境問題における先進国の役割は、とのテーマでどんな本、あるいは資料を見たらいいのかという相談があった。そのとき印象的だったのは、公共図書館に行くと具体的な書名を調べてから来なさいと言われる、と言っていたことだ。こういう相談ができないので、とも言っていた。

部会として扱うという声もあったが、当面は草の根で広めて行きたいと考えている。趣旨に賛成してくださる方は、無許可でいいのでどんどん使ってください。文章は高橋恵美子作成です。

## 会員の広場

### 「ほんとうの図書館」

神奈川県立上溝高校 司書 高橋恵美子

ほんとうの図書館は、図書館という看板のある役所ではない。  
ほんとうの図書館は、無料の貸本屋ではない。（菅原峻氏の言葉から）

ほんとうの図書館には、よい司書がいる。

よい司書には奉仕する姿勢がある。  
あいまいな質問をしてもいいんです。本を特定してから来なさい、なんて決して言いません。

よい司書は本を知っている。

よい司書はカウンターに立っている。

今、ほとんどの図書館では司書はカウンターにいません。

よい司書は問題意識を持っている。

利用者が必要としている資料は？利用者にとって、使いやすいのは？

よい司書はねばり強い。

よい司書は勇気を持っている。（前川恒雄氏の言葉から）

ほんとうの図書館では、利用者が子どもだからといって、軽く扱われることはない。

ほんとうの図書館では、弱者へのサービスが競うように行われる。

ほんとうの図書館では、「図書館の自由に関する宣言」が大事にされている。

ほんとうの図書館では、利用者の声が大事にされる。

大学図書館も学校図書館も図書館です。でもほんとうの図書館ですか？

今、日本では、ほんとうの図書館は消えつつあります。

あなたの身近な図書館は、ほんとうの図書館ですか？

会員の広場

## 学校図書館を変える図書館管理システムとは

埼玉県立新座高等学校 司書 宮崎健太郎

2009 年 3 月より JLA 情報システム研究会に参加している。同研究会は現在、後述する Next-L への援助と、同プロジェクト（が開発している）のシステムの普及を活動の中心としている。

ここでは 3 月 9 日に開かれた「Next-L ビジネスモデル説明会」の様子から同プロジェクトの現状を紹介するとともに、学校図書館での関わりと活用について簡単に検討したい。

### 1. Next-L ビジネスモデル説明会報告

3 月 9 日の説明会の前半では、慶応大学准教授の原田隆志氏による講演があった。

「Next-L (Project Next-L ともいう)」は、図書館管理システムをオープンソースソフトウェア (OSS: ソースコードを公開し、多くの人の手によって設計、(改良) 開発を行い、自由に使えるソフト) で開発するプロジェクトである。

このプロジェクトについて、原田氏は図書館管理システムの標準仕様検討の場であるとした。Next-L では司書・ベンダーなど背景の異なる関係者が自由にシステム開発へ参加し、標準仕様を検討している。さらに機能追加の標準化によって時代のニーズに応じたシステムを随時進化させることもできる、というのだ。

Next-L のシステムは OSS なので、無料で自由に使うことができ、改変したり売ることにも許される。まだ未完成だが近く頒布可能なものとなる予定であ

り、導入実績を積むことでシステムの完成度を高めたいとしている。頒布にベンダーの力は不可欠であり、いくつかのビジネスモデルが提案された。

後半の部では、Next-L のプロトタイプのシステム、「槐 (enju)」のデモが行われた。ウェブブラウザの中で動作するなど今までのシステムと雰囲気は大きく異なり、「タグ」機能など現代的な機能も数多く盛り込まれている。MARC は国立国会図書館の開設する PORTA から目録データをダウンロードできる。

さらに、標準化の一例として筑波大学の学生が開発した、いわば読書コミュニティ構築システム「Shizuku」との連携が紹介された。2 つのシステムはあたかも一体化動作して見えたが、他システムとのデータのやりとりの仕組みを標準化することで、時代にマッチした追加機能が容易に可能になるという。

### 2. 学校図書館は Next-L をどう活かすのか

さて、学校図書館界はこの取り組みを図書館活動に活かし、関わるができるだろうか。

まずすべきは学校図書館向けのシステムとしての機能の標準仕様の検討と実装、または機能の削除という作業であろう。これには小中高校での差異の配慮もしなければならぬ。

その上で、OSS であるメリットを活かし、安く導入できるシステムとして普及させることができる。文科省の『学

校図書館の現状に関する調査』』によれば蔵書のデータベース化に着手している学校数は平成20年現在、高校で77.9%、小・中学校は約45%でしかない。

もう一步踏み込んで、学校ならではの魅力ある（あるいは必要に迫られた）追加機能を検討するチャンスとすることも可能かもしれない。

「Shizuku」のような読書指導と関わりを持つ機能や授業・レポート等との関わりなど、考え得るテーマは多い。一昨年、高校生の作成した図書館システム「猫の司書さん」がプログラミング・コンテストに入賞して話題になった。利用者によるレビューの書き込み、メールマガジンの配信などの機能は、生徒のニーズを教えてくれる。

学校図書館の現状のシステムへの不満を持つ方や、よりよい機能の提案をお持ちの方、ぜひ一緒にこの取り組みに参加いただければと思う。ご一報ください。

#### 【参考資料】

PROJECT NEXT-L. PROJECT NEXT-L WIKI  
<http://next-l.slis.keio.ac.jp/wiki/wiki.cgi> (参照 2009-05-09)

原田隆史. 図書館員自身の協同で作る図書館システム仕様：日本発のオープンソース図書館システム作成を目指して. カレントアウェアネス. (292), 2007, P. 4-6.

<http://current.ndl.go.jp/ca1629>  
 (参照 2009-05-09)

えんじゅ図書館（プロトタイプ「槐（enju）」の動作デモ）  
<http://enju.slis.keio.ac.jp> (参照 2009-05-10)

PROJECT SHIZUKU. PROJECT SHIZUKU ～次世代図書館情報システム～  
[HTTP://WWW.SHIZUKU.AC/](http://www.shizuku.ac/)

財団法人日本情報処理開発協会. 平成19年度U-20プログラミング・コンテスト  
<http://www.jipdec.jp/procon/2007/index.html> (参照 2009-05-10)



カット：『玉三郎カット集 2』穂積絵理子著。

## 会員の広場

### 神奈川産、10 年もの；新米司書を育てる 6 つのレッスン

神奈川県立横須賀工業高校 司書 田子環

#### 0. はじめに

筆者は 1998 年に神奈川県の司書（行政職）として採用され、県立藤沢西高校に着任。2004 年に県立横須賀工業高校に転勤して現在に至る。採用試験を受けた当時は公共図書館志向であり、学校図書館に関する知識は皆無に等しかった。4 月 1 日に辞令を受け取って初めて学校勤務であることを知り、右も左もわからないまま一校の図書館を任されてから紆余曲折を経て 10 年。これまでの実践を振り返ってみたい。

#### 1. 基礎編

##### 1－1. レッスン 1 型をまねる

何から手をつけていいのかわからないときに助けてくれたのは、「神奈川県学校図書館員研究会」の先輩方だった。県内の公私立高校（私立の中高一貫校も含む）約 200 校が参加するこの研究会は、県立高校の学校司書が PTA 雇用だった時代から、専任・専門・正規の職員となって現在に至る 50 年余りの歴史を持ち、さまざまな実践や研究を積み重ねてきた。年 4 回開催される全体会や、地区ごとに行っている研究活動に参加することによって、さまざまな知識や情報を得ることができた。また、県教委が主催する学校司書向けの新採用研修も役立った。現役の高校司書が講師となり、各地区の学校図書館を会場に開催される研修が初年度に 7 回開かれ、資料提供や図書館 PR、図書委員会活動など、現場ですぐに活かせるノウハウを学ぶことができた。

当時先輩に言われた「3 年目でスタートラインが見えてくる」という言葉が印象に残っている。とにかく最初の数年は、型をまね、技を盗みながら、自分の目指す方向を模索する時期だった。何でも吸収したいという思いから、学校図書館問題研究会に入会したのもこの頃だった。夏の全国大会では、各地の会員によるパワフルな実践を目の当たりにし、大いに刺激を受けた。

##### 1－2. レッスン 2 利用される学校図書館をつくる

新鮮で魅力的で、思わず手に取りたくなる資料が揃い、居心地がよく、利用者の身近な存在である図書館。さまざまな実践を見て回る中で、自分もそんな図書館をつくりたいと思うようになった。生徒の読みたい気持ちを引き出すような選書を心がけたり、館内レイアウトやサインを工夫したり、新着図書案内を校内のあちこちに掲示したり…いいと思ったことを手当たり次第に取り入れながら、夢中で図書館の活性化に取り組むうちに、着任 5 年目で年間貸出冊数 2 万 2 千冊（生徒一人あたり約 30 冊）を実現するに至った。

##### 1－3. レッスン 3 授業と関わる

日常的な読書の場としての図書館づくりに力を入れ、利用が定着してきた一方、授業で図書館が利用される機会は少なく、もっと使ってほしいと思いながらも手をこまねいていた。転機となっ

たのは2003年。「総合的な学習」の開始に伴い図書館で情報検索のオリエンテーションを行う必要性を感じていたものの、授業時間が確保できず悩んでいたところ、同年に必修となった教科「情報」に思い至った。担当教員に相談すると、インターネットによる情報検索の授業を計画していることがわかり、図書館も協力させてもらうことになった。

この授業では、同じ情報をインターネットと図書館で検索し、結果を比較してそれぞれの長所と短所を知ることを目的とした。教員と一緒に授業計画を立てたり、授業の場で情報検索の専門家としてクラス全体を前に話をしたりという経験はとても大きく、図書館が「学校の教育課程の展開に寄与する」ことの意義を改めて考えるきっかけとなった。

## 2. 応用編

### 2-1. レッスン4 学校のニーズに応える

藤沢西高校に6年勤務した後、横須賀工業高校へ転勤した。進学中心の中堅校だった普通高校から、生徒の層もカリキュラムも違う専門高校に来てみると、選書やレファレンス、生徒とのコミュニケーションなど、今までの経験やスタイルが通用しないことばかりで戸惑った。しかしプロとして学校図書館を任されている以上、どんな状況にも臨機応変に対応しなくてはならない。この学校では図書館に何が求められているのか、何を提供すべきなのかを見極めて実行する力が問われているのだと悟った。

着任5年目となった現在感じているのは、生徒の知的好奇心に訴え、読書を楽しんでもらうための日常的な資料提供だけでなく、授業支援に力を入れる必要性である。専門教科、普通教科それぞ

れの現状を把握し、生徒が興味を持って参加できる魅力的な授業のための提案を図書館からも積極的に行って、教員と共に授業をつくっていくこと。今までやってきた「居心地の良い、教室とはちょっと違う特別な場所」としての図書館運営にとどまらず、授業のときにも図書館の機能がなくてはならないと思われる存在でありたいと思うようになった。そのためには、日頃から教員と積極的にコミュニケーションをとったり、授業で使えそうなネタをあちこちから拾い集めてアイデアを練ったりする努力が欠かせない。いざ意識して取り組み始めると、今までいかにこの方面の仕事をさぼっていたかがよくわかった。

### 2-2. レッスン5 図書館ネットワークを活用する

工業高校1年目で最も苦労したのはレファレンスである。生徒に質問されても専門用語の意味がわからず、どの資料にあたればいいのか見当もつかない。その場で答えられずに、何度も悔しい思いをした。選書もまた難題であり、要求があって初めてその分野の資料が不足していることに気づくこともしばしばだった。

そんなとき頼りになるのは、他の工業高校に勤務する司書である。電話やeメールやFAXで頻繁にやりとりをする中で、毎年「新人工業高校司書」が同じことを繰り返している実態を知り、専門高校間のネットワークの必要性を痛感した。

神奈川県では、学校図書館間で資料や情報のネットワークを構築して図書館サービスの向上を目指す取組みが2000年頃から本格的に始まり、現在ではインターネット上の電子掲示板を利用して学校図書館間で資料の相互貸借を行う「学校図書館蔵書照会システム」の試行や、「県立の図書館と県立高等学校による連携・協力事業」を通

じた資料提供やレファレンスサービスなどが行われている。筆者もこれらを積極的に活用し、事業全体の企画や運営にも関わるようになった。

1校に原則1名しかいない学校司書にとって、横のつながりは大切である。各校の所蔵資料を融通しあうことで、限られた資料費を有効活用できるのも大きなメリットである。

## 2 - 3 . レ ッ ス ン 6 LibraryNAVI を活用する

LibraryNAVI (以下 LN) <sup>ii</sup>は、神奈川県学校図書館員研究会の地区研究から生まれた情報リテラシーツールである。筆者はLN と出会った当初、おそらく最もオーソドックスであろう、図書館の使い方や資料・情報の探し方をナビゲートするリーフレットとして使い始めた。

そして、実際にいくつか制作するうちに、LN が持つさまざまな可能性が見えてきた。LN 制作は、自分が伝えたい情報や誰かが必要としている情報を、5つの視点で切り取ってコンパクトにまとめる作業である。制作者はこの作業を通じて、情報を収集し、取捨選択し、まとめ、発信するというステップを踏むことになり、自然に情報リテラシーを身につけることができる。LN 制作そのものが格好の教材なのである。

またLNにはどんな内容でも盛り込むことができ、あらゆる教科での活用が可能である。筆者は国語の教員と一緒に、生徒が各自好きなテーマを選んでLNをつくるという授業を行った。他校では数学の授業にLNを取り入れた例もある。

各地で行われているLNワークショップでは、事前に資料を準備する必要のない「自己紹介ナビ」制作が定着しつつある。自作のLNを使って「名刺交換会」をすると、初対面の参加者同士の会話がぐいに弾み、コミュニケーションツールと

しても優れていることがわかってきた。

そして何よりもLNの魅力は、そのユニークな形である。初めて手にしたときの楽しさや驚きは、強い印象を残す。LNのさらなる可能性を引き出すべく、学校生活のさまざまな場面をとらえて積極的にLNを活用していきたいと考えている。

## 3. おわりに

学校司書になって10年、ようやくスタートラインに立てた気がする。わかったことは、この仕事にゴールがないということだけ。当面は、どんな現場にいても、その場のニーズを察知してカスタマイズの図書館をつくれる司書を目指してレッスンを続けていきたい。

<sup>i</sup> 萩原環「実践報告 教科『情報』とのコラボレーション授業」『現代の図書館』Vol. 42 No. 1 (2004. 3)

<sup>ii</sup> 詳しくはblog「LibraryNAVI アーカイブ」を参照のこと <http://librarynavi.seesaa.net/>



カット：『季節カット集』松本貴子著

## 5. 新 幹事紹介

### 太田克子(群馬県立高崎商業高等学校)

この3月からようやく本校図書館の蔵書データベース化を始めました。JLA 全国図書館大会群馬大会(平成14年)の時は、群馬県立図書館員として、学校図書館の分科会でお世話になりました。現在は、調べ学習やアニメーションを通して、小・中学校図書館とも関わってます。みなさんから色々教えていただきながら、ささやかですが、学校司書として”学校図書館のいいいいいただき方”を伝えていきたいです。

どうぞよろしくお願いします。

### 松井正英(長野県下諏訪向陽高等学校)

このたび新しく幹事を務めることになりました。

今期は、岡山の永井さんに代わって、JLAの理事も務めます。学校図書館部会としては、部会長が代表して理事会に出ていますが、私も部会と理事会のパイプ役になればと思います。

また、図書館の自由委員会にも顔を出しますので、学校図書館における自由の問題についても、情報提供をするなどして役割を果たしていきたいです。よろしくお願いします。

### 5-2. 2009~2010年度(JLA第32期)役員

部会長：高橋恵美子(神奈川, 県立上溝高校図書館)

副部会長：中村 崇(東京, 都立井草高校図書館)

幹事：梅本恵(山口),  
大口和枝(東京, 都立忍岡高校図書館),  
太田克子(群馬, 県立高崎商業高校図書館),  
笠川昭治(神奈川, 県立茅ヶ崎西浜高校図書館),  
木下通子(埼玉, 県立春日部東高校図書館),  
鈴木啓子(兵庫, 県立西宮今津高校図書館)

### 山本恵美子(島根県立出雲商業高校)

先日の新聞に、「日本一認知度低い島根」という県HPの「自虐」的コピーが好評で、広報コンクールで賞を受賞したと載っていました。鳥取とよく間違われる島根ですが、「広島と背中合わせの日本海側」が島根。若手県職員のグループが『田舎ごっこ』(鄙びと著、ワニライオン)という本を出して話題になるなど、高齢県だけれども、若者は元気ですよ。

私は県庁のある松江市から車で約1時間の出雲市に在住。現在は、全校生徒500人ほどの商業高校に勤務しています。

学校図書館の抱える課題について、皆さんと一緒に考え、課題の糸口をほぐせるような活動を進めていきたいと思います。地方在住もメリットになるような幹事を目指して頑張ります。

よろしくお願ひします。



谷嶋正彦(大阪, 大阪信愛女学院図書館),  
田沼澄子(埼玉, 県立坂戸西高校図書館),  
永井悦重(岡山),  
長谷川優子(埼玉, 県立がんセンター図書館),  
甫仮久美子(神奈川, 県立大清水高校図書館),  
堀岡秀清(東京, 都立小岩高校図書館),  
松井正英(長野・長野県下諏訪向陽高校図書館),  
松本美智子(神奈川, 県立住吉高校図書館),  
山本恵美子(島根, 県立出雲商業高校図書館)  
監事：中村登世子(神奈川, 県立新羽高校図書館), 関根真理(東京, 都立農芸高校図書館)  
※以上のメンバーで32期学図部会の運営にあたります。どうぞよろしくお願いいたします。

→→→ 集 会 案 内 ←←←

学校図書館問題研究会 第25回大会(北海道大会)のご案内

テーマ：いま、考える学校図書館の使命

日時：2009年8月3日(月)～5日(水)

場所：シャトレゼ・ガトーキングダムダッポロホテル&スパリゾート

〒002-8043 札幌市北区東茂戸 132 TEL011-773-2211

主催：学校図書館問題研究会 (<http://homepage3.nifty.com/gakutoken/>)

内容：8/3 午後【講演】「戦う動物園」(小菅正夫さん：旭川市立旭山動物園名誉園長)

夜間【ナイター】北海道のお話の部屋／学図研入門講座／「本の味見」をしてみよう！ーちょい読みで本との出会いを！／本のお話をしようよ～自然科学に強くなろう！／おすすめBOOKカレンダーを作ろう！／利用案内大見本市／恵庭市の学校図書館に人が入って／屋台ナイター

8/4 午前【実践報告1】「本を楽しむ子どもたち～特別支援学校の場合～」

(床山美喜子：熊本県立松橋養護学校司書)

【実践報告2】「学校図書館とは」を問いつづけて」

(高橋恵美子：神奈川県立上溝高等学校司書)

午後【分科会】学校図書館と特別支援教育／考えてみよう、学校図書館&学校司書／LibraryNAVIを作ろう、語ろう／授業支援についてー働きかけと準備のコツ／司書と教師の協働ー図書館の機能を活かした授業実践とは／もっと知ろう！本のこと／授業に活かそう！ブックトーク／アイヌ民族の歴史と文学を語る

夜間 【全体交流会・各県企画】

8/5 午前 【全体会・分科会報告・総会ほか】

参加費：全日程参加：会員 5000 円・非会員 5500 円・学生 2000 円／一日のみ参加 3000 円・学生 1000 円 (非会員で大会報告集『がくと』希望の場合は別に送料込み 1000 円)

申込締切：2009年6月30日(火) 必着 (期限厳守でお願いいたします)

大会要項・申込書などは、学校図書館問題研究会 (<http://homepage3.nifty.com/gakutoken/>) からダウンロードできます。

問い合わせ先：大会事務局 谷口初江

北海道石狩翔陽高等学校 TEL0133-74-5771 FAX0133-74-8741

E-mail:gakutohokkaidotaiikai@yahoo.co.jp

※この集会案内のコーナーは、各団体等から掲載依頼のあった図書館関係の集会の情報をそのまま掲載しています。掲載された集会等についての参加申し込みやお問い合わせについては、各主催者に直接ご連絡・お問い合わせ下さい。

※研究会・集会等の開催情報を掲載いたします

各団体等が開催する図書館関係の研究会・集会等の開催情報を掲載いたします。開催日時やテーマ等編集部で要点をまとめて掲載いたします。掲載ご希望の方は、[gakutobukai@jla.or.jp](mailto:gakutobukai@jla.or.jp) にご連絡下さい。なお、次号の発行は2009年秋頃の予定です。

## 6. 幹事会からのお知らせ

### ◎幹事会はどなたでもご参加いただけます

学校図書館部会は、幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、学校図書館部会員であればどなたでもご参加頂けます。

次回は7月5日（日）法政大学ボアソナードタワー内で午後2時から5時を予定しています。教室番号は部会長（目次上部参照）までお問い合わせ下さい。

◎幹事会記録は日本図書館協会－学校図書館ホームページで公開しています。

### ◎ホームページ開設のお知らせ

学校図書館部会ではホームページを開設しています。日本図書館協会のホームページから開くことができます。<http://www.jla.or.jp/school/index.html>

### ◎学図部会メーリングリストへのお誘い

学校図書館部会では、部会運営を部会員の皆様に開かれたものとし、また、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しております。部会員であればどなたでもご参加頂けます。

参加ご希望の方は、下記連絡先または部会メールアドレス ([gakutobukai@jla.or.jp](mailto:gakutobukai@jla.or.jp)) 宛にご連絡下さい。

参加にあたっては、(1) 氏名 (本名) (2) 日本図書館協会の会員番号 (図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています) (3) 所属 (ない方は不要) (4) メールアドレス をお知らせ下さい。提供頂いた個人情報は当部会「個人情報保護方針」(JLA学校図書館部会ホームページ参照) にもとづき管理いたします。

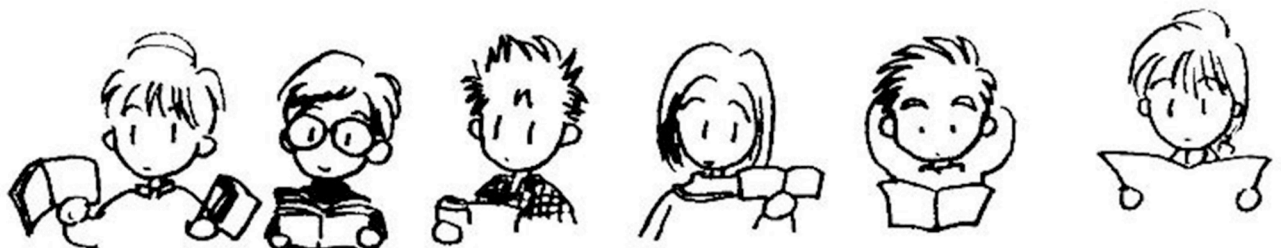
→連絡先：坂戸西高校 田沼澄子 電話 049-286-9473 ファクシミリ 049-279-1009  
[tosyo@sw-h.spec.ed.jp](mailto:tosyo@sw-h.spec.ed.jp)

◎学校図書館部会では皆さまからのご意見・ご提案を募集しています。

下記までご意見や「会員の広場」への原稿をお寄せください。

連絡先：〒229-1123 神奈川県相模原市上溝 6-5-1 神奈川県立上溝高等学校図書館  
高橋恵美子

TEL042-762-0008 (代) / 042-762-0253 (直通) E-Mail : [gakutobukai@jla.or.jp](mailto:gakutobukai@jla.or.jp)



カット：穂積絵理子